

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	上津江 地 区		市長・副市長の出席 市長・副市長
日 時	平成 30 年 9 月 26 日 (水) 19:30～21:00		場 所 上津江振興局会議室
地 区 参 加 者	古閑 上野田自治会長 (地区理事)、 高木 川原自治会長 森口 都留自治会長、 信岡 雉谷自治会長 嶋崎 振興協議会長		計 28 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	行村 総務部長	副リーダー 永瀬 地区集会所所長
	プレゼン ター	梶原 社会教育課長 宮本 施設工務課長	連絡調整担当 朝倉 小野振興センター長
	書 記	北口 光岡こども園長	
	構 成 員	河津 上津江振興局長	
	そ の 他		
	議 題	テ ー マ	説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～	梶原 社会教育課長	
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、	宮本 施設工務課長	

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・避難情報の種類は、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示」とあるが、上津江地区は、高齢者が全体の半分くらいを占めている。「避難勧告」は必要なく、「避難準備」の次はすみやかに「避難指示」を出した方が良いのではないかと。

(回答)

- ・よく聞く話だが、いきなり「避難指示」となった時に、避難場所へ果たして行けるのかどうか、という話になる。また、「避難勧告」も「避難指示」も一緒だという意見もある。市としては避難してもらえれば、早く避難してもらいたい。

(意見)

- ・避難場所のAランクは、振興局の体育館のみ。あとは一時避難場所のCランクのみだ。「指示」

の方が逃げることに迷いがなくて良い。

(回答)

- ・「指示」になると強制的な強い言葉になる。実際には「勧告」でも、「指示」でも、動いてもらえないことが多い。

(意見)

- ・避難中に災害にあう事もある。振興局に避難するのが最良の方法かということも、考えた方がいいのかもしれない。

(回答)

- ・全くその通りだ。避難中に災害にあう事もある。朝、昼、夕方、夜で状況は違うと思う。真剣に、自分の暮らしの中で午前中なら、どこに避難する。夜だったら、どこに避難する。というように考えてほしい。

また、班長や防災士をしっかり育てていただき、地域に応じた避難の仕方をやってほしい。「避難勧告」は危ない状況が近づきつつある。「避難指示」が出た時は、本当に危ない状況と思ってほしい。

- ・吹上町自治会は、地区割で、地域内の情報をトランシーバーでやり取りしている。トランシーバーの購入については、市が補助金を出している。上津江は山があり、電波がなかなか通らないかもしれないが、避難状況の確認、指示等の準備に各自治会長が積極的に取り組んでいただきたいと思う。

(意見)

- ・がけ崩れで停電になり、携帯電話も使えない状況になった時、「どうするか」を考える必要があると思う。消防が持っている無線はどれくらい届くのか。

(回答)

- ・かなりの距離は届くと聞いている。ただ、今は消防団だけしか持っていない。それを自治会長まで持てれば、と思う。
- ・浸水被害の多い吹上町はトランシーバーを5つの地区に分けて設置している。こういうインフラを持っていただきたいと思う。停電やケーブルが切れると、全ての情報が途絶えてしまう。昨

年、小野地区ががけ崩れ等で、3日間音信不通の状況になった。どちらかという、上津江はそういう状況が発生しやすいエリアなので、トランシーバーを有効活用してほしい。

- ・今、衛星からの電波を利用できるラジオの導入を検討している。停電になっても、電池を入れたら聞ける。ただ、莫大な費用がかかるので、設置するとなれば、みなさんがしっかり管理し、使ってほしい。耳の聞こえづらい方には、文字が出る機材もあるので、有線等よりも安全性は高い。情報を伝えるインフラの整備はしていこうと思う。
- ・まずは、逃げてもらうこと、地域内でどこが危ないか、逃げた方がいいのかどうか、皆さんが地域の事は一番良く分かっていると思うので、もう一度確認してほしい。

(意見)

- ・昨年、避難誘導に行った。避難指示が出た時は土砂降りだったが、大雨の中無理に避難してもらった。車で家の近くまで行けない所もある。少し待てば雨が止んだが、もう少し待てば雨が止むのかがわからず、避難させるタイミング、その判断が難しい。夜に避難指示を出されても、無理だと思った。

(回答)

- ・もう少し待てば、小康状態になるかどうかは、わからない。昨年の朝倉市も、わずか数時間の大雨で災害が出た。線状降水帯は発生する場所だけはわかっている。ただ、それがいつまで続くかはわかっていない。気象庁の予報を信じて、情報提供する以外にない。
- ・ただ、いかなる状況においても、朝、昼、夜の避難行動を常日頃の自分の動きの中で、この状況だったらどこに、この状況だったら動かない等の判断はしていただいた方がいいと思う。
- ・今年の7月豪雨の時には、緊急の場合を除き、午後9時以降はなるべく「避難指示」等はださないこととした。夜中に指示を出して避難し、災害に合うということも想像されたので、市も情報の出し方には工夫をしている。
- ・先ほどの話にあった最初から「避難指示」で良いのか、「避難勧告」があった方がいいのか、悩ましいところだ。いずれにしても、避難情報が出たからといって、避難しなければいけないという考えは捨ててもらいたい。これまでの何十年という経験の中で、自宅の2階で十分だとすれば2階でもいいし、無駄に動いて大きな怪我をしないということも大事だ。

ただし、地域全体で大きな被害が発生するという事も十分考えられるので、その後に、避難していただいた方が良い場合もあると思う。

(意見)

- ・人工知能による気象予知ができるようになったと聞く。鹿児島県の始良地区がやっているようだ。今年の大雨の時も、始良地区のどのあたりに何時ころから雨が降るといような事がわかって、リアルタイムにその情報が入ってくる。気象庁とは別個で、かなりの確率で雨がやむ時間までわかるらしい。日田市も導入を検討していただけたらと思う。

(回答)

- ・いくつかの専門業者や大学の先生で、それぞれの地区の小さな沢がどの程度の降水量で溢れるかをピンポイントで研究されている。おそらく始良町もそういう専門の業者が入って一緒にされているのではと思う。かなりピンポイントで解析する技術はできてきているようだ。日田市にも話はきているが、かなりの額が必要となる。今、そのあたりの状況を聞かせてもらっている。

(意見)

- ・上津江振興局の職員は現在 12 名体制だ。災害時は職員が大活躍している。先日の火災の時も、振興局の機動分団が一番に駆け付けた。熊本地震のがけ崩れの時も、職員が早朝から交通整理をしていた。職員は公務を優先する。使命感が違う。津江地区は山岳地帯で人口もどんどん減っている。職員に頼らざるを得ない状況だ。自治会や住民自治組織は職員以上に動けるのか不安があるので、是非、12 名体制を維持してほしい。
- ・消防団員が非常に少なくなってきている。消防団員の増員、現状維持について、施策があれば伺いたい。
- ・九州北部豪雨に見られたように、下流域で流木被害が多発した。上津江地区も、山崩れ、がけ崩れが起きた場合、ダム決壊につながりかねない。どこに原因があるかという、山林の手入れが悪いと言われている。上津江の山の 80%は保安林だが、間伐も行き届かず、いつ崩壊してもおかしくない山がたくさんある。市として山林の手入れを山林所有者に働きかけて、災害防止あるいは抑止のために、災害の起こらない山林にしてほしい。山林所有者に山の手入れをするような働きかけを県や国に要望しているのかを伺いたい。

(回答)

- ・消防団の問題だが、なかなか難しい状況だ。待遇の改善も進めているが、ほぼどこも定員を割っている。入ろうとしても、親が止めるということもある。是非、入団するという人がいたら、積極的に勧めてほしい。
- ・消防署の署員は80名から120名まで増やした。プロの防災集団は作っていこうと取り組んでいる。近年の災害に消防団が活躍したということで、内閣総理大臣賞をいただいた。これを励みに消防団の皆さんにも、今後の地域での防災活動に励んでいただけたらと思う。
- ・山の手入れについては、公共造林事業による間伐などの森林整備に対する補助を行っており、この制度を活用し適切な森林整備に努めていただきたいと考えている。

災害防止の取組としては、流木の発生を防止するため、河川や溪流沿いの人工林を伐採し、広葉樹の植栽等により自然植生の回復を図る事業を実施している。

また、平成31年4月の森林経営管理法の施行に伴い、今後、森林所有者に対する意向調査を実施する予定であり、所有者自らが経営管理できない森林については、必要な手続きを取った上で、市が経営管理することとなる。制度の運用など詳細については、現在、検討中です。

- ・「砂防事業」だが、県に流木が出てこないような楕型の砂防に変えてもらうよう要望し、砂防建設を進めてもらっているところです。

(意見)

- ・消防の可搬ポンプは1基が100キロ近くある。火災時も高齢者は運べないので、倉庫に置いたまま。せっかくあるのに使えない、小型のポンプに変えてもらえないか。

(回答)

- ・今、消防班の困りごとを調査している。その中で、自主防災組織にいろんなポンプがあり、古いものは重いので高齢者は運べないという問題がある。消火栓の方が良いのではないかと検討している。班の困りごとも集計中なので、もう少し待つてほしい。
- ・参考だが、自主防災組織の活性化事業の中に、防火用施設を整備する経費は7割以内の補助がある。

(意見)

- ・地域がある程度まとまっていたら良いが、点在していたら、消火栓をつける方が難しいのではな

いか。

(要望)

- ・交通災害についてだが、国道 387 号線の改良がなかなかできていない。大型車がくると離合もできない。市から土木事務所の方に要望して、早く道路の改良を促進してほしい。

(回答)

- ・事業実績の数字からみれば 50 数パーセントだが、日田市の総距離は非常に長いので、低い数字になっている。改良についてはお願いしている。
- ・がけ崩れ等、歩かないとわからない事があるので、各地域を調査して振興局に上げてもらえないか。
- ・耶馬溪のがけ崩れも、事前に何らかの兆候があったらしい。それに気付くのは、そこに住んでいる人だ。日頃から自分たちのまわりには気をつけておくべきだということを考えておいてほしい。

(意見)

- ・上津江で一番心配なのは土砂災害だ。ハザードマップができるなら、どのくらいの信頼度があるのか、また、いつ頃できるのか。完成したら全戸に配布するのか。
- ・バイオマス発電だが、当初は端材も引き受けるとのことだったが、今は受け入れていない。それが山に残り、流木被害を引き起こす。
- ・間伐の行き届いていない山だが、今度の林野庁の新たなしくみに当てはまるのか。地域に合った制度にしてもらいたい。
- ・常勤の消防職員の数は増えたが、非常勤の消防団員は不足している。例えば、市の新採用職員は半強制的に消防団員にするくらいやってほしい。

(回答)

- ・職員には消防団に入るよう、基本的には勧めている。
- ・実際、災害時の片づけは、トライウッド等の企業が中心にならないと難しい。
- ・ハザードマップについて、平成 31 年までに県の調査が全て終わるので、調査の終わった所から順次ハザードマップを作成していく。これは専門業者が各自治会に入って、自治会と一緒に、避難場所、避難経路、危険箇所等、話をしながら地区ごとのハザードマップを作っていく。今現在でも、大分県の土砂マップはインターネット上で見られる。ハザードマップは出来上がり次第各

家庭に配布する。

- ・流木被害について、立木の伐採は、林地残材が落下・流失しないよう措置を講じることなどを日田市森林整備計画に定めており、実際に施業を行う森林組合や林業事業体にも指導しているところ。

なお、流木については、平成 29 年 7 月九州北部豪雨において現地調査を行った専門家の報告では、「(調査した流木は)、林齢 40 年程度の大木が多く、これらはほぼすべて根の付いた流木であった。林内で間伐放置された中径木が多く見られる箇所も一部あったが、これらの木は元の位置からは流出していなかった。」とされており、林内に残置された間伐材や端材の流出が大きな被害を引き起こすものとは考えておりません。

- ・間伐などの森林整備が行き届かず、森林所有者が経営管理を行う意向がない森林については、平成 31 年 4 月に施行される森林経営管理法に基づき市町村が経営管理を行うこととなります。制度の運用など詳細については、現在、検討中です。
- ・最後のお願いだが、現場の方しかわからない情報がたくさんある。大きな被害を避けられるよう、それをしっかり把握し、防災への備えとしてほしい。